

国語科学習指導案

日 時 平成 28 年 5 月 24 日 (火) 5 時間目
学 級 2 年 A 組教室 (本館 2 階)
授業者 寺 田 英 昭

1 単元名 多様な視点から

『生物が記録する科学』

バイオロギングの可能性 (佐藤克文)

練習: 説明の仕方を工夫する

話す、聞く: 魅力的な提案をしよう

2 指導について

(1) 単元について

本単元は「文章の構成を捉え、説明の工夫を考える」単元である。初めに、「生物が記録する科学—バイオロギングの可能性」という説明的な文章の学習をする。筆者が読者に「伝えたいこと」を大切にしながら「文章の構成」や「説明の工夫」を読み取り、正しく理解する活動を行う。次に、「説明の仕方を工夫する」「メディアと上手に付き合うために」から分かりやすい説明について学び、実際にメディアとの付き合い方を書く活動に取り組む。さらに、出口の活動で総合的な学習の時間とも関わらせて、「日間賀島の魅力」を分かりやすく説明するプレゼンテーションを位置づける。

生徒はプレゼンテーションに必要な材料の集め方や資料や機器の効果的な使い方を身に付け、自分たちで「日間賀島の魅力」を表現することで、表現における構成意識をさらに高めていくことができる。

また、学習活動を通して身に付けた「説明の工夫」を活用し、効果的に説明することもできる。さらに、お互いのプレゼンテーションを評価しあうことで、この活動を通して身に付けた力をより確かなものにできる。

本時の学習を通して、論理の展開や表現の工夫について「思いを伝える」という視点で筆者の叙述(説明の仕方の特徴)を理解することが、出口の表現活動で目的をもって、相手を意識して伝える活動に有効であると考えられる。

(2) 生徒の実態について

学力検査(CRT)の結果から、関心・意欲・態度に関する項目だけが全国平均よりも3ポイントマイナスであることが分かった。関心・意欲・態度でCの評価になった生徒は5名いる。そのうち4名の生徒が「話すこと聞くこと」「書くこと」「読むこと」のいずれかにCの評価がついており、苦手意識が低評価の原因と考えられる。また、正答人数の少ない項目が「適語補充(ところで)」「叙述に即した読み取り」「文脈上の意味理解」「表現の読み取り」「心情の読み取り」と「読むこと」に関わる内容が5/9を閉めていることも分かった。

本校材では、分かりやすく説明するための工夫について学習する。単元を通して「話すこと聞くこと」「書くこと」「読むこと」の基本にかえて繰り返し既習事項を確認しながら学習活動をすすめていくことで苦手意識を少なくし、主体的に国語の学習に向かわせたいと考える。「伝え合い活動」で仲間を意識し、目的をもって分かりやすく説明する練習を繰り返すことが、低評価だった活動を変えることになると考える。

3 研究主題・研究内容と関わって

研究主題

「自らの思いや考えを伝え合い、主体的に課題追究をする生徒の育成」

～指導改善サイクルを生かした授業づくりを通して～

I 単元の見通しと単位時間の役割の明確化

単元構造図(別紙①)については昨年度の研究で大切にしたことを通して作成した。単元で付けたい力を明確にし、生徒の実態や意識の流れを大切にしたものを系統的に作成した。

II 伝え合い活動を核とした指導の工夫(本時の中心)

学習過程を「つかむ」「考えをもつ」「広げ、深める」「確かにする」と四段階に分けて考える。

「つかむ」段階では、まず前時の学習を振り返り、本論1の筆者の工夫を確認する。次に調査対象を「エンペラーペンギン」から「アデリーペンギン」に変えた筆者の意図を読み取っていこうという目標をもたせ本時の課題につなぐ。

「考えをもつ」段階では、課題に対して読み取る視点「写真B」「図3」「筆者の表現の特徴」を与えて、根拠となる言葉を明確にして考えられるようにする。生徒は自分が選んだ視点で本文読み、筆者の工夫を読み取る。

「広げ、深める」段階では視点の違いが分るように板書し、筆者の説明の工夫をつかめるようにする。また、全体交流の前に班で自分の読み取りを「伝え合い」全体交流で多様な視点から自分の読みを発表させる。さらに、「生物が記録する科学」という主題や筆者の主張「思考できる範囲を広げる」という言葉と対応させ、ペンギンの能力を伝えたいだけではなく、バイオロギングから広がる人間の思考を筆者たちは「編み出し」「開拓」しているのだという思いを、中学生に伝えたいのだということまで迫らせたい。

「確かにする」段階では本時の授業を通して確認できたことや新たに知ったことを「キーワード」を使ってノートにまとめる。筆者の説明の特徴にそれぞれ意味があることを確認し、ノートにまとめ、確かめさせる。

III 学ぶ環境づくり

今年度ははじめたこととして1分前学習の改善がある。「漢字のとびら」を使って毎時間漢字の読みを確認するのである。この活動についても検証していきたいと考えている。

国語科 単元構図「第2学年」

「多様な視点から」 全時間

- ・生物が記録する科学（説明文）
- ・魅力的な提案をしよう

【本単元で習得した知識・技能を活用する今後の学習】

第2学年 モアイは語る—地球の未来（論説）

君は最後の晩餐を知っているか（評論）

第3学年 月の起源を探る（直接的につながる説明文）

作られた「物語」をこえて（論説）

【単元の目標】 「読むこと」・「書くこと」・「話すこと聞くこと」

- ・文章の構成や展開の仕方、事実と意見の示し方に注意して、説明の工夫を考える。
- ・多様な方法で発表する材料を集め、効果的でわかりやすい説明のしかたを工夫する。

出口の活動と意識 ⑩⑪⑫「魅力的な提案をしよう（日間賀島宿泊研修の魅力）」【話すこと聞くこと】

○多様な方法で発表する材料を集め、聞き手を意識して材料を整理する。

○資料や機器などを有効に活用し、わかりやすい説明をする。

○プレゼンテーションを行い、仲間のプレゼンテーションについて評価し交流する。

◆日間賀島の写真や自分たちのエピソードを入れて、わかりやすいプレゼンテーションをすることができた。短い時間で資料を有効に使ってプレゼンテーションをすることが大変だと分かった。また、〇〇班のプレゼンテーションは聞き手を意識して、ポイントを整理して発表できていたので聞いていて日間賀島の魅力がよく伝わってきた。これからも聞き手を意識して分かりやすく話すことを意識して生きたい。

⑦「説明の仕方を工夫する」

【書くこと】

○「生物が記録する科学」で学んだことを確認し、説明したい事柄と目的を明らかにすることができる。

◆4つの方法からエピソードを選んだ。メディアの利用の仕方を分かりやすく説明したい。

⑧「メディアと上手に付き合うために」①

【書くこと】

○「メディアと上手に付き合うために」を読み、自分が伝えたい付き合い方を見つけ、構想を考えることができる。

◆テレビとの付き合い方についてエピソードを中心に説明したい。順序立てて説明するのは使い方に有効だと分かった。

⑨「メディアと上手に付き合うために」②

【書くこと】

○自分が選んだ方法（順序・項目・エピソード・比較）で百時程度にまとめて書き、仲間に分かりやすく説明することができる。

◆エピソードを中心にテレビとの付き合い方についてまとめることができた。エピソードが失敗談だと仲間もよく聞いてくれた。

③「生物が記録する科学」

全体・段落構成【関】

○段落の役割や三部構成などの既習事項について確認し、筆者の構成の工夫を読み取ることができる。

◆1年生でも学習したが、「序論・本論・結論」の三部構成になっていることが確認できた。次の時間は「結論」から筆者が私たちに伝えたい意見を読み取りたい

④「生物が記録する科学」

結論・序論【読むこと】

○筆者が中学生に伝えたい思いを結論から読み取ることができる。また、序論の説明の工夫を読み取ることができる。

◆「開拓」「編み出した」から筆者たちの苦労が分かった。そして、その苦労から、地球のなぞを解くことができることもわかった。

⑤「生物が記録する科学」

本論1【読むこと】

○エンペラーペンギンのバイオロギングから分かったことを写真や図、失敗例を使って効果的に説明していることが分かる。

◆写真や図の効果だけでなく疑問を解決するためにバイオロギングの失敗例を出して、「自然のままの状況」にこだわる研究者の姿勢を読み取ることができた。

⑥「生物が記録する科学」

本論2（本時）【読むこと】

○野生動物のたくましさ写真や図、観察結果から述べることで、結論の「可能性」につなげていることを読み取ることができる。

◆野生の動物のバイオロギングから人間の思考の可能性を考えることができた。また、「問題→観察→考察」を繰り返し、人間は疑問をもつことが重要性なのだと分かった。

①「単元の見通し」【関心・意欲・態度】

○単元全体の構成を知り、「魅力的な提案」をするために、「生物が記録する科学」「説明の仕方を工夫する」で説明の仕方を学ぶことが分かる。

◆2年生になり、学級会などで提案する機会が多くなる。仲間に分かりやすく説明するにはどうすればいいのかを考えたい。

②「単元への導入」【関心・意欲・態度】

○「魅力的な提案」をプレゼンテーションするという目的をもち、単元に関係ある項目をインターネットで調べることができる。

◆「生物が記録する科学」の筆者佐藤克文さんのホームページを見て、自分たちに分かりやすく工夫して作品を書いたことが分かった。佐藤さんの思いを理解したい。

【伸ばしたい「読むこと」の力】

- ・事実と意見の関係について理解し、自分の考えをもつ。
- ・根拠となる段落や部分をもとに自分の考えを述べる。
- ・筆者のものの見方や考え方と自分の考えと比較して考える。

【本単元までに習得している説明的な文章の知識・技能】

1年生「ダイコンは大きな根？（説明）」「ちょっと立ち止まって（説明）」「シカの落ち穂拾い（記録）」

- ・段落の役割に着目して読む。
- ・文章の構成に着目して読む。
- ・事実と意見の関係を読み取る。

小学校

- ・事物の仕組みについて説明した文章を読む・科学的なことについて書いた文章を読み、感想を書く・記録や報告の文章を読む

【単元を貫く課題】

構成を捉え、説明の工夫を考える。

4 本時の展開（本時：6／12）

- (1) ねらい……段落構成や事実と意見の関係を考えて読む活動を通して、図や写真を有効に活用し、読者に野生の動物のデータと人間の探究心で思考が広がる「可能性」について分かりやすく工夫して書いていることを読み取ることができる。
- (2) 評価規準…写真や図を選んでいる意図やアデリーペンギンのバイオロギングで読者に伝えたい筆者の考えを読み取ることができる。【読むこと】
- (3) 言語活動…筆者のものの見方や考え方を、写真や図、言葉を根拠に考え、言語操作や比較を根拠に仲間と交流する。「伝え合い」

	ねらい	学習活動	自らの思いや考えを伝え合う手立て	主体的に課題追究をする手立て
つかむ ／ 考えをもつ ／ 広げ 深める ／ 確かにする	1 前時を振り返り、「本論1」について自分のまとめを発表し、「さて、もう一つ」という書き出しから「本論2」の重要性について考え、課題につなげる。	1 「本論1」の筆者の工夫を確認し、課題をつかむ。 ・写真A①②③の活用 ・図1、2の活用 ・事実（データ）と意見の関係 ・「本論1」で「失敗例」「データ」「気づかされた」という言葉を使い、筆者の考えをまとめたものを確認し、アデリーペンギンの話題「本論2」につなげる。 アデリーペンギンの例を使った筆者の考えを読み取ろう。	既習内容「構成の工夫」「写真や図の利用」について、ノートを使って確認する。 （前時のまとめから本時の課題を考える）	○1分前学習→繰り返し学習 ・たくさんのペンギンの研究結果からエンペラーペンギンを選んだ筆者の思いを確認し、「さて、もう一つ」から本時の課題につなげる。
	2 課題に対して本文を読み、「写真B」「図3」「水族館：野生」の視点から本文を読み取ることができる。 3 「写真Bや図3を用いたのはなぜか」「水族館と比較したのはなぜか」筆者の考えを想像して交流することができる。 結論で筆者が読者に伝えたい考え（主張）を確認し、主題「生物が記録する科学」の根拠となる例として二つのペンギンの記録を利用したことを抑える 4 本時をまとめ、自分や仲間の読み取りを振り返ることができる。	2 本論2を音読し、個人で追究する。 「興味深い行動」「一斉に」「いっしょに」という言葉から、筆者は集団行動のなぞにバイオロギングで挑んだことが分かる。 →「写真B」はそのことが一番伝わる写真だ。 「三羽の深度記録計」「異なる深さで」→疑問 「何日も観察」→捕食者から身を守る →「図3」はデータだけでなく観察の有効性が言いたい。 「水族館」「野生」「のんびり」「生き残り」などの対比から、バイオロギングによる野生動物の調査が、私たち人間の思考の範囲を広げる可能性について語っていることが分かる。 3 全体で追究する。 生物が記録する「データ」と「科学」の違いから、データをもとに思考の範囲を広げる人間について考える。 科学は人間が疑問を抱き実験や検証を積み重ねて思考し考えていく学問である。その思考のもとになるデータを生物自身が記録するように筆者たちは思考した。人間が失敗や観察・思考を繰り返すことの大切さを述べている。 4 本論のまとめを書き、本時を振り返る。 「筆者」は「エンペラーペンギン」の「失敗例」、「アデリーペンギン」の「観察」で分かったこと用いて、バイオロギングと人間の思考の可能性について「開拓」してきた自分たちの苦労や「中学生」に対する期待を読者に伝えたいということが分かった。	「写真B」「図3」や「水族館」「のんびり」「野生」「生き残り」などの言葉を根拠に自分の読み取りをノートに書き、筆者の考えを想像させる。→班交流 ◇視点の違いが分かるように板書し、自分の考えの根拠をはっきりとさせて意見を伝え合うことができるようにする。→全体交流 評価【読】：①挙手・発言②ノート A：筆者の考えを分かりやすく説明するだけではなく、バイオロギングから私たち人間の思考の範囲が広がる可能性や人間の探究心について読者に語っていることが分かる。 C：読み取る視点「写真B」「図3」「水族館」などから一つ選び、根拠となる言葉を明確にして筆者の考えを読み取ることができる。	・課題に対して読み取る視点「写真B」「図3」「水族館」を生徒に与え、根拠となる言葉を明確にして筆者の考えを読み取ることができるようにする。 ・板書を利用し、視点を明確にすることで根拠となる言葉を明確にして話し合うことができるようにする。 ・「さて、もう一つ」の「さて」に筆者の考えがあることに気付かせ、「思考の範囲を大きく広げる」ことになった例を出していることが分かる。 研究内容Ⅱ ③ ・ノートにまとめを書かせる。本時、自分が分かったことを必要な言葉をつかってまとめさせ、価値付ける。言葉＝「バイオロギング」「観察」「開拓」